

市民文化復興のシンボル誕生 市民交流センター tette がオープン

1月11日、震災により甚大な被害を受けた市街地中心部の再生・活性化の中核施設として、また、市民文化復興のシンボルとして、市民交流センターがオープンしました。

市民交流センターは、設計の段階から、導入する機能や活用方法などについて、35回に及び市民ワークショップを開催し、中学生から高齢者まで延べ約700人が参加しました。数多くの意見をできる限り反映させ「市民との協働のまちづくり」が一つの形となりました。

愛称の「tette」は、応募総数1317件から選ばれたもので「みんなが手と手をつなぎ笑顔があふれるように」との想いが込められています。

11日に行ったオープニングセレモニーでは、観光牡丹大使でバイオリニストのNAOTOさんによるミニコンサートなど



ウルトラFMが開局

も行われ、市民交流センターのオープンに花を添えました。また、市民交流センター内にスタジオを持つ須賀川地域コミュニティFM(愛称・ウルトラFM)が開局しました。旬なまちの話題を地元パーソナリティが届け、暮らしに役立つ身近な情報などを毎日「聞くことができる本市の新しい情報手段となりました。」

須賀川市を直撃 令和元年東日本台風(台風第19号)による甚大な被害

10月12日の夜、令和元年東日本台風が福島県を通過し、本市では、阿武隈川や釈迦堂川流域を中心に、甚大な被害をもたらしました。12日の午前8時から13日の午前1時までの17時間の総雨量は、白河地点で368.5mmを観測。短時間の記録的な大雨となり、阿武隈川で過去最高水位となる9.61メートル、釈迦堂川でも6.77メートルの水位を観測しました。

市内各所で河川からの越水や内水はん濫による浸水被害が発生し、1062棟(1628世帯)の住家が床上・床下浸水に見舞われ、多くの市民が被災し



甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風

ました。また、農業・商工業・土木関連の被害の総額は約80億円となりました。そのような中、県内外から延べ1158人の災害ボランティアが訪れ、被災住宅での家財の運び出しや泥上げなどを支援していただきました。さらに、他自治体からの職員派遣、災害時の支援・協力協定締結自治体や企業からの物資提供、市一般廃棄物収集運搬委託業者をはじめ、市建設業者協議会、陸上自衛隊による災害ごみの収集など、多くの方に協力を得ながら、復旧・復興が進められました。

平成31年・令和元年の主な出来事 Sukagawa 2019



1月 市民交流センターtetteがオープン・ウルトラFMが開局
「こおりやま広域連携中枢都市圏」形成連携協約を締結



2月 アニメツーリズム協会から県内初の「アニメ聖地」認定プレートを受贈(写真①)
大東小学校統合50周年記念式典



3月 第2期中心市街地活性化基本計画が国の認定を受ける

4月 市役所防災広場の供用開始
須賀川地方保健環境組合の新しいごみ処理施設が稼働(写真②)
台湾定期チャーター便が新規就航(写真③)



5月 岩瀬公民館が岩瀬市民サービスセンター内にリニューアルオープン
ぼたん児童クラブ館が移転オープン
観光協会と物産振興協会が統合し、市観光物産振興協会が発足

7月 半世紀振りに「サルビアの道」が復活(写真④)

8月 市議会議員一般選挙(無投票)
10月 保育施設などに通う3～5歳児を対象に市独自の給食費無償化がスタート
令和元年東日本台風
うつみね児童クラブ館が移転オープン

11月 第三小学校創立60周年記念式典



災害時にも活用できる庁舎西側の市役所防災広場

災害応急対策の機能を強化 市役所防災広場の 供用開始

4月1日、東日本大震災で被災した庁舎の再建と合わせて整備を進めていた「市役所防災広場」の供用を開始しました。市役所防災広場は、庁舎西側に位置し、平常時は「市民の憩いの場」として利用し、災害時は、一時避難場所や支援の受け入れ場所として活用します。

広場内には断水時でも利用できる水洗トイレとして「マンホールトイレ」を5カ所設置。さらに、電気やガスなどが使用できないときに炊き出しをするための「かまどベンチ」を、2カ所設置しました。東日本大震災の経験を生かし、市庁舎の災害応急対策活動拠点としての機能強化を図りました。



待望の市民交流センター tette がオープン



仕事や学校生活の中に「新たな生活様式」が浸透していきました



世帯をこえて学び愉しむ 風流のはじめ館が開館

俳聖・松尾芭蕉と旧知の仲である本市の俳人「相楽等躬」にちなみ、10月9日「風流のはじめ館」が開館しました。

風流のはじめ館は、東日本大震災で被災した「芭蕉記念館」の機能の継承と、幅広い世代が和文に親しみ、交流を通してにぎわいを生み出す場として誕生しました。

施設名称は、ワークショップで市民の皆さんから提案された

名称案を基に決定。芭蕉が「おくのほそ道」紀行の途中で等躬を訪ね、みちのくの地に入った感慨について詠んだ「風流の初やおくの田植うた」を踏まえたものでもあります。

オープニングセレモニーでは、テープカットのほか、古寺山自奉楽保存会による「御田植え踊り」の披露、市民文化団体の皆さんによる呈茶、和楽器の演奏などが行われました。



和文化に親しみ交流する場に

令和2年の主な出来事

Sukagawa 2020



2月 新型コロナウイルス感染症対策本部を設置



3月 JR水郡線川東駅の新駅舎が完成
「大町よってけ広場」から「円谷幸吉メモリアルパーク」へ(写真①)



4月 第2期市まち・ひと・しごと創生総合戦略がスタート

福祉まるごと相談窓口を開設

須賀川消防本部で新消防指令センターの運用がスタート

緊急事態宣言が全国へ拡大(福島県は5月14日に解除)

5月 阿武隈川堤防(浜尾遊水地西側)の本復旧工事が完了

7月 橋本克也氏が市長無投票当選(4期目)(写真②)

8月 博物館が開館50周年

9月 地域外来(発熱外来)を緑の広場に開設

大黒池防災公園に「土のうステーション」を設置

10月 すかがわ観光物産館「flatto」がオープン(写真③)

風流のはじめ館が開館

稲田公民館がリニューアルオープン(写真④)

11月 須賀川特産アーカイブセンターがオープン

1本だけの松明あかし



市民の命を守る指令室

最新システムを完備 新消防指令センターの運用がスタート

4月から須賀川消防本部でコンピュータ機器と通信技術を駆使した新消防指令センターの運用がスタートしました。管内で発生した火災などの通報を受け、最適な出動部隊を編成し、迅速かつ正確な指令が行われます。

また、11月からは緊急通報システム「NET119緊急通報システム」が導入されました。「NET119緊急通報システム」は、聴覚や言語機能に障がいのある人向けの通報システムで、スマートフォンやタブレットを利用して、簡単な操作で素早く通報できます。

こうした最新機器やシステムの活用で、火災や自然災害での救命体制を支え、大切な命を守ることに繋がっています。

新型コロナウイルス感染症の流行 ウイルスとの戦いから共存を目指して

2月、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、私たちの生活や経済活動に深刻な影響を与え、全てが一変しました。

本市では、2月21日に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置、2月27日に「市主催等イベント中止等及び市の施設の休館に関する指針」を定め、2月28日からは不特定多数の人が利用し、濃厚接触の可能性が高い施設を休館、一部の施設の貸館を中止しました。

4月16日、国から外出の自粛などを要請する「緊急事態宣言」が全国に発出されました。福島県は5月14日に解除されたものの、目に見えないウイルスに不安を抱く日々が続きました。

こうした中、社会経済活動を維持するため、マスクの着用、「三密」の回避、テレワークなど「新しい生活様式」での暮らしが始まりました。

市でも新しい生活様式を周知し、感染対策を呼び掛けたほか、地域外来(発熱外来)を緑の広場に開設、プレミアム付商品券「コロナに負けるな!ポータン商品券」を発行し、市民生活、社会経済活動を支援しました。

この年は学校行事をはじめ、見頃を迎えた須賀川牡丹園の休園、釈迦堂川花火大会の中止、松明を1本に限定しての松明あかしなど、毎年開催してきた市内の各イベントが中止または規模を縮小しての開催となりました。



各団体よりマスクなどを受贈

57年振りに聖火が須賀川に 東京2020オリンピック 聖火リレー

3月27日、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた東京2020オリンピックの聖火リレーが行われました。夏季オリンピックとしては、前回の東京オリンピックから57年振りに、聖火が本市を通過しました。1964年東京オリンピックのマロン競技で銅メダルを獲得した円谷幸吉選手ふるさとである本市にとって、再び聖火リレーが行われたことは、大変意義深いものでした。

今回の聖火リレーを彩ったのが「円谷幸吉・レガシーサルビアの会」による「サルビアの道」です。「サルビアの道」は、1964年東京オリンピックの聖火リレーで、円谷幸吉選手を応援しようと、母校である須賀川高校（現 須賀川創英館高校）の生徒会が行ったものです。

そして、東京2020オリンピックで「第2の円谷」として

世界へ羽ばたいたのが、本市出身の相澤晃選手です。7月30日、陸上競技男子1万メートルに出場し、市民へ勇気と感動を与えてくれました。

相澤選手の地元である長沼地域の皆さんで結成された相澤晃応援団や出身クラブの円谷フアンズなどの関係団体が、各会場をオンラインでつなぎ一緒に応援しました。



相澤選手を応援

コロナ禍をみんなと乗り越える 心に花を咲かせようプロジェクト

2月、新型コロナウイルス感染症の治療や感染予防に日々尽力されている医療機関、介護・障がい者施設従事者の皆さんへ、市民の皆さんから寄せられた感謝のメッセージとともに、応援の品を贈る「心に花を咲かせようプロジェクト」を行いました。

「大変な状況の中、コロナの脅威と戦ってくださり、本当にありがとうございます。これからも皆さんのことを心から応援しています」皆様、本当

にありがとうございます。みんなで心をひとつにこの難関を越えて、生きてゆきましょう」といった温かいメッセージ4300通が集まりました。

3月には、プロジェクトのお返しとして、市内90事業所850人の医療従事者などの皆さんからお礼のメッセージが届きました。

感謝の気持ちを贈られた医療従事者などの皆さんと、贈った市民の皆さんお互いの心にきれいな花が咲きました。



心に花を咲かせようプロジェクト

令和3年の主な出来事

Sukagawa 2021



- 2月 市公式 LINE 運用を開始
心に花を咲かせようプロジェクト
福島県沖を震源とする地震が発生



- 3月 東京2020オリンピック聖火リレー
- 4月 義務教育学校稲田学園が開校(写真①)
降霜で果樹 97ヘクタールに被害が発生
- 5月 新型コロナウイルスワクチンの集団接種を開始(写真②)



- 6月 降ひょうで野菜・果樹 41.5ヘクタールに被害が発生
- 7月 円谷英二監督、円谷幸吉選手に名誉市民章を授与
大黒池防災公園に市防災倉庫が完成
相澤晃選手が東京2020オリンピック陸上男子10000mの決勝に出場



- 8月 東京2020パラリンピック聖火フェスティバル(写真③)
- 9月 文化センターがリニューアルオープン
第一小学校創立150周年記念式典
- 10月 円谷幸吉メモリアルホールの展示内容を拡充
阿武隈小学校創立50周年記念式典
すかがわ国際短編映画祭が33年の歴史に幕(写真④)
- 12月 生誕120年円谷英二展



住宅などに大きな被害が発生

マグニチュード7.3 福島県沖を震源とする 地震が発生

2月13日午後11時8分、福島県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生。本市では最大震度6弱を観測しました。市災害対策本部では、関係機関とともに速やかに対応し、被害状況の調査や、避難所を開設しました。

り災証明書 の交付件数は

2282件(全壊6件、大規模半壊9件、中規模半壊17件、半壊119件、準半壊532件、一部損壊1599件)、被災証明書の交付件数は370件(個人320件、事業者50件)となったほか、公共施設や道路農業施設、商工業なども大きな被害を受けました。

市では、早期の生活再建のため、災害見舞金や住宅の応急修理、市税の減免などの支援を行いました。





憩いの広場に自然と調和したカフェが完成

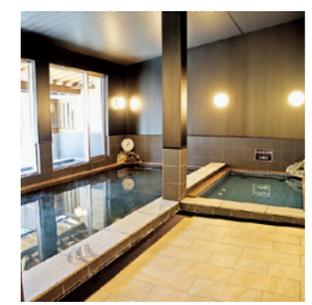
翠ヶ丘公園が新たな魅力ある公園に 県内初のパークPFI手法を 活用したカフェがオープン

翠ヶ丘公園は、まちなかにありながら約30ヘクタールの緑に囲まれた公園で、平成元年には「日本都市公園百選」に選ばれています。

市民の憩いの場として利用されてきた翠ヶ丘公園を、新たな魅力あふれる公園とするため、新しい整備手法である「パークPFI」を活用し、令和2年9月に基本協定を締結した(株)あおいと温浴施設等整備事業を進めてきました。

パークPFIとは、公園内に飲食店などの収益施設を整備し、その利益で公園を維持管理する事業者などを公募で選ぶ制度で、県内で初めての活用となりました。

11月、憩いの広場に飲食施設「Jadegreen cafe」がオープンしました。公園が持っている自然の魅力を生かすため、施設のデザインは周囲



令和5年度にオープンした温浴施設

の景観に優しく溶け込む外観とし、ユニバーサルデザインを積極的に取り入れることで、多くの人が快適に利用できる心地良い空間となっています。

令和5年4月には、公園の自然豊かなロケーションを生かした温浴施設「Sanna & Spa Green」もオープンしました。屋外イベントステージや園路、子どもたちが遊べる小川をはじめ、カフェ・温浴施設内には、公園利用者も利用できるトイレを完備し、更に利便性の高いにぎわいあふれる公園になりました。

マグニチュード7.4
福島県沖を震源とする
地震が再び発生



大量の図書が散乱した中央図書館

3月16日午後11時36分、令和3年2月に引き続き、福島県沖を震源とするマグニチュード7.4の地震が発生。本市では、最大震度5強を観測しました。市災害対策本部では、関係機関とともに速やかに対応し、被害状況の調査や、安全確認を行いました。

り災証明書の交付件数は907件(半壊11件、準半壊136件、一部損壊760件)、被災証明書の交付件数は159件(個人87件、事業者72件)となったほか、公共施設や道路、農業施設、商工業なども大きな被害を受けました。

市では、前年同様早期の生活再建のため、災害見舞金や住宅の応急修理、市税の減免などの支援を行いました。

県内外からファンが集まる 「アニメージュとジブリ展」開幕

9月17日から12月11日まで、文化センターで「アニメージュとジブリ展」一冊の雑誌からジブリは始まった」ふくしま須賀川展を開催しました。

この展覧会には、雑誌「アニメージュ」の誌面やアニメのセル画、ジオリマなど約200点が展示され、期間中に3万人以上が来場しました。訪れた人たちは、アニメージュの歴史とスタジオジブリの原点に触れ、アニメの世界に浸っていました。

展覧会、オープニングセレモニーのほか、関連イベントとして、文化センターでのジブリ映画の上映会、ジブリ作品に関連する絵画コンクール「すかがわみんなの美術館」、市内飲食店16店舗が趣向を凝らして展覧会とのコラボメニューを販売する「須賀川コラボメニュー」、市内の学校・音楽団体によるジブリやアニメージュ関連音楽のコンサートなどを行いました。



アニメージュとジブリ展と関連イベント

令和4年の主な出来事

Sukagawa 2022



- 1月 市成年後見支援センターを開設
- 2月 市SDGs推進協議会を設置
- 3月 福島県沖を震源とする地震が発生
- 4月 あおば循環バスが運行を開始
須賀川創英館高校が開校(写真①)



- 6月 すかがわ地方障がい者地域活動支援センター「ウィッシュ」を開設
降ひょうで野菜・果樹157ヘクタールに被害が発生
すかがわ特撮塾が開講
- 7月 養老孟司さんに市特別功労者表彰が贈られる(写真②)



- 「シン・ウルトラマン」の上映会と、監督・樋口真嗣さん、俳優・斎藤工さんによるスペシャルトーク(写真③)
- 9月 「アニメージュとジブリ展」一冊の雑誌からジブリは始まった」ふくしま須賀川展が開幕
全国自主怪獣映画選手権を本市で初開催(写真④)



- 市過疎地域持続的発展計画を策定
- 10月 須賀川桐陽高校60周年記念式典
- 11月 翠ヶ丘公園に飲食施設がオープン
- 12月 市民交流センターの来館者が200万人を達成



再び多くの笑顔が見られる一年に



徐々に市民生活が戻り各イベントが再開 新型コロナウイルス感染症が 5類感染症に移行

令和2年2月から新型コロナウイルス感染症が流行し、目に見えないウイルスとの戦いが始まってから3年。「緊急事態宣言」や「福島県非常事態宣言」などが発出され、何度も感染の拡大を繰り返す中、基本的な感染対策やワクチン接種などで、ウイルスと戦ってきました。

5月8日、新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類相当から季節性インフルエンザなどと同様の5類に移行。マスクの着用が個人の判断になるなど、感染対策が緩和される中で、親しい人と会食を楽しむ姿や県外・海外へ旅行に行く人などの姿が見られるようになってきました。

徐々に市民生活が元に戻ってきたと実感できるようになり、これまで中止や規模を縮小して行っていた市内の各イベントも通常開催となりました。きつり



学校行事も再開

共につくる、住み続けたいまち 市第9次総合計画スタート・行政組織改編

4月から、5年間のまちづくりの指針となる市第9次総合計画「まちづくりビジョン2023」がスタートしました。将来都市像は「共につくる、住み続けたいまちすかがわ」とし、これまで取り組んできた市民との協働のまちづくりや、先人たちが築き上げてきた市民自治の精神を受け継ぎ、市への愛着と誇り「シビックプライド」にあふれ、全ての人にとって住み続けたいまちであることを目指しています。

計画策定に当たっては、新たな試みとして中学生ワークショップと市民ワークショップを開催。地域懇談会なども含め、多くの意見をいただきました。また、総合計画を実現するため市の組織の一部を改編し「市民協働推進部」「情報政策課」「総合交通政策係」「特撮文化推進係」を設置しました。総合計画の重要政策の一つである「市民協働によるまちづくりの推進」に取り組むため「公民館」を「コミュニティセンター」に変更し、機能の充実を図っています。



まちづくりの指針となる新たな総合計画がスタート



開港30周年となった福島空港

空からつながる絆 福島空港開港30周年

平成5年3月に開港した福島空港が30周年を迎えました。これまで福島県の空の玄関口として、観光をはじめ地域産業の伸展と人々の交流に大きく貢献してきたほか、東日本大震災時には、災害救助や救援物資の輸送などの役割を果たしました。30周年を記念して、3月に記念式典が行われたほか、9月に

は航空自衛隊アクロバットチーム「ブルーインパルス」とエアリースパイロット・室屋義秀さんによるエアショーが行われました。

また、1月にはベトナムからのチャーター便が運航され、国際チャーター便の運航は3年振りの再開となりました。

令和6年1月から台湾便が定期チャーター便として就航し、インバウンド需要に伴う、今後更なる利用が見込まれます。

令和5年の主な出来事

Sukagawa 2023



- 1月 すかがわシネマ開催
- 3月 福島空港開港30周年記念式典
社丹キャンペーンクルー ミス社丹時代も含めて38年の歴史に献写真①
- 4月 市第9次総合計画がスタート・市行政組織を改編
[文化都市すかがわ]推進戦略本部を設置



- 須賀川アリーナの名称を「円谷幸吉メモリアルアリーナ」に変更
- 降霜で果樹57ヘクタールに被害が発生
(株)円谷プロダクションと「まちづくり提携協定」を締結
- 翠ヶ丘公園に温浴施設がオープン



- 5月 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行
市カーボンニュートラル宣言
- 7月 18年振りに「NHKのど自慢」を開催(写真②)
十両昇進が内定した高橋力士が、市長を表敬訪問(写真③)



- 8月 市議会議員一般選挙
- 10月 白方小学校創立150周年記念式典
福島ファイヤーボンズの須賀川開幕戦(写真④)
仁井田小学校創立150周年記念式典
西袋第一小学校創立150周年記念式典
西袋第二小学校創立150周年記念式典
- 11月 長沼小学校創立150周年記念式典

